

前回専門委員会における主な指摘事項

令和6年7月19日

中央環境審議会総合政策部会

環境研究・技術開発推進戦略専門委員会

＜第2章 目指すべき社会像と環境分野の研究・技術開発の在り方＞	
1	科学技術・イノベーション基本計画ではキャッチフレーズがあるように、推進戦略においても重要なポイントを押さえたフレーズがあるとよい。
＜第3章 環境分野の研究・技術開発及び社会実証・実装に係る課題＞	
2	重点課題③について、ネット・ゼロ、循環経済、ネイチャーポジティブの同時解決とあるが、同時解決といった点が難しく、包含的な表現が望ましいのではないかと。
3	人文・社会科学の研究者を巻き込みについて、残念ながら有機的に実現できている研究プロジェクトはこれまでに無いと考えているが、重点課題③の記載は具体性があるため、他の課題においてもどのように関わってもらいたいかを明記することが望ましい。
4	日本や先進国におけるサービスが途上国の環境へのインパクトがあるという視点も含めた研究推進が必要だと考えている。また、そのようなグローバルな視点を持ち、意見が言える若手研究者の育成が重要。
5	人材育成や大きなサプライチェーンについては国際的な視点が必要であり、日本の外に目を向けるような記載が望ましい。
6	統合領域の課題が増えてくると予想されるが、統合的な視点だけでは、解決に向けて間に合わないのではないかと考えている。そのため、重点課題⑥以降の各課題や研究プロジェクト、学会等の連携を促すようなことが望ましい。
7	統合領域において、「データや AI 等の利活用を積極的に行いながら、人文・社会科学領域や、従来の環境分野の枠を超えた研究コミュニティとの連携を進めながら、・・・」とあるが、他の領域でも重要であるため、全体に係る位置にも記載することが望ましい。
8	科学技術・イノベーションを社会実装していく上での課題例が一部分となっており、他の例も追記することでバランスが良くなるのではないかと。
9	文化に関してポスト SDGs においても重要とされつつあり、自然共生や保全を図っていくにあたり、地域への愛着や鎮守の森といった自然観等、文化的な要因がモチベーションにつながる可能性がある。
10	3章と4章の構成がリンクしていることで分かりやすい記載となっているが、一部方策は書かれているものの、課題が記載されていない箇所がある。例えば、P33では「環境データプラットフォームの整備」による情報共有。
＜第4章 環境分野の研究・技術開発及び社会実証・実装の効果的な推進方策＞	
11	最後の別紙1のところ、さまざまな技術に目配りしているが、本文でそのことが伝わらないのはもったいないので、少なくとも抽象的にはここに書いてあるなどの対応関係を記載してほしい。
12	冒頭に、科学的知見の集積、研究開発への投資、人的資本投資について記載があるものの、それ以降は科学的知見の集積に関する記載に留まっているため、研究開発への投資、人的資

	本投資について追記等を検討することも考えられる。
13	戦略的な国際ルール形成の推進に関して、必要性を訴えているに留まるのではなく、具体的に研究・技術開発で何ができるかを踏み込むことが望ましい。
14	(P31) 水素に関する記載について、ここでは地域脱炭素の文脈で記載がされていることから、そのような表現ができないだろうか。
15	(P32) SBIR 制度のような環境省以外の制度にも触れていることから、環境省と組むことで改善される課題を強調・説明していくことが望ましい。
16	イノベーションの担い手としての環境スタートアップの支援方策が記載されているが、P33の 3. 環境研究・課題解決における地域拠点の役割強化と連続的につながるものとして運用することが望ましい。
17	地域の金融機関もこのような意識を持つてはいるが、潜在的な地域の知財や技術を見極めるには限界がある。このような課題も含めた記載が望ましい。
18	これまで環境省として大きな役割として果たしてきた不変の原点を継承しつつ、新たな視点を含めた研究を進めていく等の方策に関する記載を盛り込むことが望ましい。
19	日本学術会議等で環境関連の学会にパブリックコメントを求めるなどのプッシュ型アプローチをしてはどうか。
20	明確な方向性について示されている。